

課題
旅

「キヤラメル」

坂井裕一郎 (23) 会社員

海野葵 (25) 役所の職員

坂井陽子 (56) 裕一郎の母親

田所翼 (38) 裕一郎の上司

三上拓也 (33) 裕一郎の得意先の社員

○ 住宅販売会社 外観

「ハッピーホーム」の看板。

会社はガラス張りのエントランスになっており、外側から、スーツ姿で頭を下げている男の人がみえる。

○ 同 中

坂井裕一郎(23)と田所翼(38)がスーツ姿で、ハッピーホームの社員証をつけている三上拓哉(33)に頭をさげている。

三上「いやーもうやめてくださいよう」

田所「(頭さげたまま) いえいえ、こちらの落ち度なので」

坂井、もういいかなと頭を上げようとすると、田所に頭を下げさせられる

田所「まだまだ学生気分がぬけてなくて、あとでガツンと叱っておきますので」

三上「田所さん、そんなことしちや、若者やめちやいますよー」

田所「いやいやいや、そんな程度ならいりませ

んから、うちはー」

坂井、頭をさげながらも、むっとした顔。

田所、それに気が付いているのか、坂井の頭を下げさせたままで

田所「ほーら坂井、ちゃんと申し訳ございませ
んでしたっていつとけ」

坂井「申し：訳：ございませんでしたっ！」

田所と三上、お互いににこにこしながら
も、目は笑っていない。

○ 道路

坂井と田所があるいている。

田所、ネクタイを少し緩めて

田所「坂井ってさ、なんでうちみたいな会社に
入った？」

坂井「え？」

田所「お前、大卒だろ？こんな小さい窓枠売っ
てるような会社入らなくてもさ」

坂井「建築関係ができればよくて…」

田所「まさか、あっち側にいきたかった？」

坂井「…」

田所「そっかーワカモノはあっちにいくのか」

坂井「でも、サツシにこんな種類あるのか知ら

なかつたし、結構おもしろいなと」

田所「：で、発注ミスしたわけだ」

坂井「：すいません」

田所「まあいいさ。今日は、昼飯おごってやるよ」

坂井「ほんとですか？」

田所「：ああ」

田所の見ている先に、チェーン店の牛丼屋がみえる。

○ 牛丼屋 中

並んで牛丼をたべている、坂井と田所。

田所、ふと食べるのをやめて

田所「お前、彼女いる？」

坂井「え？」

田所「あ、これパワハラか？」

坂井「いや、そんなことないと思います」

田所「そうだよな、うん」

坂井「…（田所をじっとみて）」

田所「何？」

坂井「さっきのは、パワハラです」

田所「ああ…」

坂井、田所が何か言うのを待つが、何も
いわれない。

坂井「あの、」

田所「：まあ、でもお前なら、大丈夫だな」

坂井「なにがです？」

田所「ちゃんと家族つくれそうだし」

坂井「・・・はあ？」

田所「子供はいいぞ。ほら、俺の子供。双子な
んだよ。かわいいだろ」

田所、スマホで子供の写真をみせる。

坂井「はあ・・・」

田所「あいつ、三上って営業、コレでこの前、
離婚してっから」

田所、パチンコする手つきのパントマイ
ムをする。

坂井「へえ…」

田所「お前、いつも暗い顔してるけど、よく見ればモテそうだし、あいつより全然まじだよ」

坂井「：ありがとうございます」

田所、くったくなく坂井に笑いかける。

○ パチンコ店 中

パチンコをしている手が映る。

ラフな格好をしている坂井が、真剣な目でパチンコをしている。

ポケットの中のスマホが鳴っているが全く気が付いていない。

○ 道路 (夕方)

夕方のチャイムが聞こえてくる。

坂井が紙袋を手に歩いている。

紙袋から、キャラメルを取り出そうとしたとき、スマホが鳴る。

スマホの画面は、「母」となっている。

坂井、電話にでて

坂井「え、みつかったの？…あ、電話気が付かなくて…いいよ、しようがな会いに行くよ。来月休み貰うから…なんで明日って、俺、仕事だよ。…あ、わかった。うん、いくよ」
スマホの電話を切った坂井、キャラメルをみて、そして食べ始める。

○ 電車 中

坂井、旅行者の恰好をして、電車に乗っている。のどかな田園風景が広がる。
電車から見える風景の中に、廃墟となっているパチンコ屋がみえてくる。
その風景を坂井は、ぼんやりとみている。
手元には、キャラメルの箱が握られている。

○ 町役場 中

海野葵 (25)、受付に座っている。
坂井がやってくる。

葵「どのような御用ですか？」

坂井が何かをいう。

葵、理解したという表情をする。

○ 同 別室

簡素なテーブルとイスだけがある部屋。

坂井が座っていると、段ボールをもった

葵がやってきて、坂井の目の前に段ボールを置く。

葵「こちらが、坂井岩男さまのお骨になります」

坂井、どうもと頭をさげて

坂井「ありがとうございます」

葵「こちらこそ、わざわざ来ていただいて…」

坂井「え？」

葵「お持ち帰り、しますよね？」

坂井「なんでそんなこと聞くんんです？」

葵「あ、えっと…」

坂井「（理解して独り言のように）そっか。普

通は断るのか…」

葵、しまったという顔をする。

○ 同 受付

坂井、骨壺が入った大きなバツクをもち
でていく。それをちらっとみる葵。

○ 同 別室

葵、椅子とテーブルを片付けるために部
屋にやってくる。

葵、テーブルの上に、坂井が忘れたキヤ
ラメルの箱があるのに気が付く。

○ 道路

葵、キヤラメルの箱をもって坂井を探し
ている。

遠くの方に坂井の姿をみるける、葵。
おもわず走り出す。

× × ×

葵「これ」

葵、息きらしてキヤラメルの箱をわたす。

坂井「ああ…」

坂井、受け取ってそのまま行こうとする。

葵「あの、」

坂井、足が止まる。

葵「すみませんでした」

坂井「え？」

葵「悲しいんですよね。なのにああいう事いつてしまつて、ほんとわかつてなくて」

坂井「この人、借金して、そして逃げた人なんですよ。だからよく考えたら、わざわざここまでくる必要なかったんだなつて」

葵「でも、そのキャラメル、岩男さんのために買ったんですよ」

坂井「え？」

葵「私ちよつと知っているんです、近所に住んでたまに会う事もあつて」

坂井「……」

葵「そのキャラメルと同じやつ、私、岩男さんが食べてるの見たことあつて……」

坂井「なんで、そんな事……」

葵「公園にいたりとかして、たまに挨拶とかしたし」

坂井「だから、なんでそんな事いうのかって！」

葵、坂井の声にびくつとする。

葵「あの、だから、私、岩男さんきつとあなた
の事、思い出してたんじゃないかと…」

坂井、じつと葵をみる。

葵「ごめんなさい」

坂井「これ(キャラメル)さ、パチンコの景品。

よくあるやつだよ」

葵「…」

坂井「勝ったらケーキ買ってくれるって言うて、
いつも負けてキャラメルだった」

葵「そうなんですネ」

坂井「(キャラメルを差し出し) 食べる？」

葵「ありがとうございます」

坂井「いや、こっちこそ…」

葵「え？」

坂井「：なんでもない」

キャラメルを受け取るとき、少しだけお

互いの指先がふれる。

了